



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
（奈良県保健環境研究センター内）



今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数把握対象感染症発生状況（平成 24 年 6 月） New
- 奈良県結核患者情報（平成 24 年 6 月） New
- 保健環境研究センター7月だより New
- 風しんが流行しています



（調査週）平成 24 年 第 29 週 7 月 16 日（月）～7 月 22 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	ヘルパンギーナ	2.17	↑↑	↑	↑↑	→
2	感染性胃腸炎	2.11	→～↓	↓	→～↓	→～↓
3	A群溶連菌咽頭炎	0.63	→～↓	→～↓	→～↓	↓
4	水痘	0.51	→～↓	→～↓	↓	↓
5	咽頭結膜熱	0.46	→	→～↓	→	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は93例で、前週報告の123例から減少。上位 5 疾患は、①ヘルパンギーナ、②感染性胃腸炎、③水痘、④A群溶連菌咽頭炎、⑤咽頭結膜熱＝伝染性紅斑の順。ヘルパンギーナの報告数（38例）は、ほぼ横ばい。水痘の報告数（14例）も、ほぼ横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（9例）も、ほぼ横ばい。咽頭結膜熱の報告数（3例）は、横ばい。伝染性紅斑の報告数（3例）も、横ばい。感染性胃腸炎の報告数（21例）は、減少。奈良市HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎が1例報告された。奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点からの報告はなかった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、107例から127例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱、突発性発疹、A群溶連菌咽頭炎の順であった。感染性胃腸炎は、47例と減少傾向であり、ヘルパンギーナは18例から34例と著明に増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。
(高木 記)

県南部地区概況 報告数(第28週→第29週)は29例→16例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(10例→6例)、②ヘルパンギーナ(8例→4例)、③A群溶連菌咽頭炎(3例→2例)、④咽頭結膜熱(2例→1例)、④水痘(1例→1例)、④突発性発疹(4例→1例)、④マイコプラズマ肺炎【基幹定点】(0例→1例)であった。
(柳生 記)

【全数把握対象感染症発生状況(平成24年6月)】

平成24年6月に奈良県内の保健所に届出のあった全数把握対象感染症は、以下のとおりです。

6月報告患者数(平成24年7月25日現在)

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	計
2類	結核	10	10	14	8	1		43
3類	腸管出血性大腸菌感染症			1				1
4類	レジオネラ症		1					1
5類	クロイツフェルト・ヤコブ病		1					1
5類	後天性免疫不全症候群			1				1
5類	風しん	1	3					4

(感染症情報センター 記)



【奈良県結核患者情報】

奈良県感染症情報センターでは結核患者発生動向情報を提供しています。今回は6月の新規届出状況をお知らせします。

表. 結核届出数 (平成24年1月～)

市町村		6月	総計
北和	奈良市	10	58
	大和郡山市	4	9
	天理市	2	18
	生駒市	1	11
	山添村		
	平群町	1	4
	三郷町	1	2
	斑鳩町	1	6
	安堵町		1
中和	大和高田市	1	10
	御所市	1	3
	香芝市	2	12
	葛城市		4
	上牧町		
	王寺町	1	3
	広陵町	1	4
	河合町	2	3
	橿原市	8	21
	桜井市	1	4
	宇陀市	3	3
	川西町		
	三宅町		
	田原本町	2	7
	曽爾村		
	御杖村		
	高取町		1
明日香村		1	
南和	吉野町		3
	大淀町		3
	下市町		
	黒滝村		
	天川村		
	下北山村		
	上北山村		
	川上村		1
	東吉野村		
	五條市		2
野迫川村			
十津川村	1	1	
合計	43	195	

(7月25日現在)

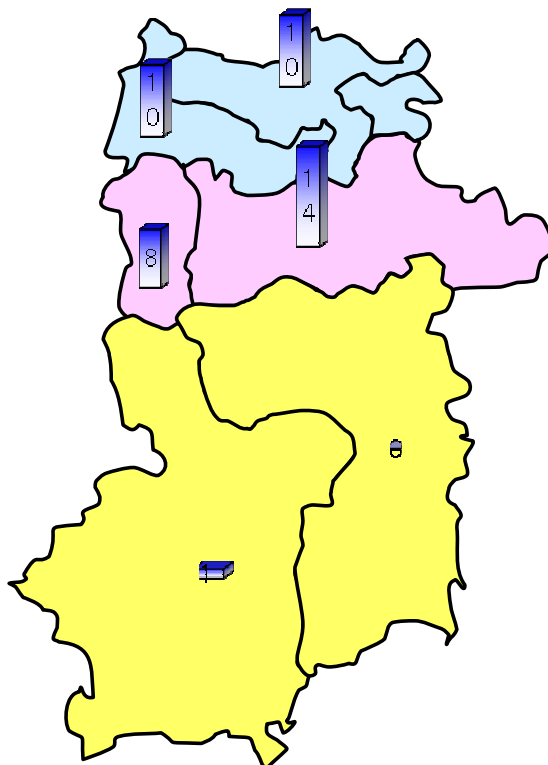


図. 保健所別届出数 (平成24年6月受理分)

(感染症情報センター 記)

【保健環境研究センター7月だより】

～カンピロバクター感染症～

カンピロバクター感染症は、菌に汚染された食品や水が原因となる**食中毒**と、ペットとの濃厚接触による**感染症**の2つの経路があります。

どのような細菌でどこにいますか？

- ✚ らせん状のグラム陰性桿菌です。微好気性菌なので、空気中では死んでしまいますが、10℃以下の環境ではしばらく生きています。
- ✚ 家畜、家禽、ペット、野生動物、野鳥等あらゆる動物が腸管内に保菌しています。

どのようにして感染しますか？

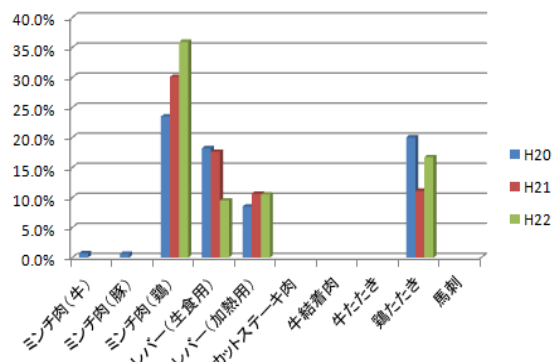
- ✚ 汚染された食品や水の摂取・・・鶏肉・牛レバー等の生食
- ✚ ペットとの接触・・・接触後の手洗い・消毒が不十分

感染するとどのような症状になりますか？

- ✚ 下痢(時に粘血便)、腹痛や発熱が主症状です。通常約1週間で回復します。
- ✚ 感染して発症するまでの期間が2～7日間と長いのが特徴です。このため、発症してもカンピロバクターが原因だと気がつかないケースがかなりあると推測されています。
- ✚ 稀に、回復10日～数週間後くらいに手足の麻痺など運動神経障害を起こすギラン・バレー症候群を発症することがあるため、腸炎症状が治った後でも注意が必要です。

予防はどのようにしますか？

- ✚ 生の肉(特に鶏肉、牛レバーは汚染率が高い(図))はそのまま食べないで、十分加熱調理を行って下さい。目安は中心部が75℃以上で1分間以上の加熱です。串を刺して出てきた汁が赤ければ加熱不十分です。また、二次汚染を防ぐことも重要です。生の肉が触れた手や調理器具から感染しますので、①こまめに手洗い・手指消毒を行い、②使用したまな板等の調理器具は使い終わればすぐに洗って熱湯をかけ、③生野菜や調理済みの食品などと生の肉は別々に調理をするなどを行って下さい。
- ✚ 動物との接触感染の予防には、手洗い・手指消毒が大事です。また、消毒不十分な手指で、食器や食品に触れないようにして下さい。



(図) 食品のカンピロバクター検出率
(厚生労働省指定品目の調査結果の推移(平成20～22年度)より抜粋、改題)

参考) 厚生労働省: カンピロバクター食中毒予防について(Q & A)

<http://www.mhlw.go.jp/ga/syokuhin/campylo/>

(細菌チーム 東中記)

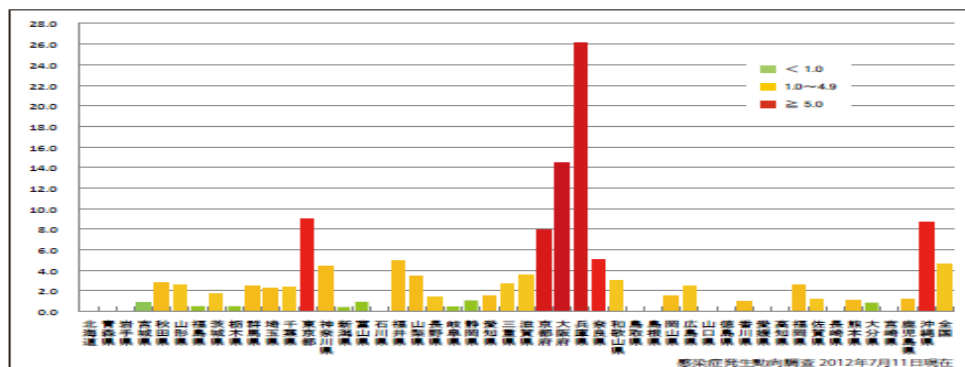
風しんが流行しています

風しんの流行はほぼ5年の周期を有し、時に大流行を繰り返しています。最近では1987年、1992年に大きい流行がみられていますが、その発生数は次第に減少傾向にありましたが、今年はすこし様子が違うようです。

風しん患者発生状況

2月以降、兵庫県や大阪府で多くの患者数が報告されています。また、5月頃からは、首都圏、特に東京都で患者が急増しています。国立感染症研究所が発表した都道府県別の人口100万あたりの患者報告数（下図）から、奈良県は兵庫県、大阪府、東京都、沖縄県、京都府に次いで多い届出数です。

奈良県では、18週（4/30-5/6）に初めて報告があり、これまでに10名の患者が報告されています。発生地別では、郡山保健所管内が4名、葛城保健所管内が3名、奈良市が2名、桜井保健所管内が1名となっています。本県では男女比は1:1で差はありませんが、全国集計では圧倒的に男性に多く、風しんの予防接種が1995年まで女子中学生が対象で、男性は予防接種を受けていない人が多いためと考えられています。



都道府県別人口100万当たり風しん報告数

先天性風疹症候群

妊娠初期の女性が風しんにかかると胎児がウイルスに感染し、難聴、心疾患、白内障、そして精神や身体の発達の遅れ等の障害をもつ赤ちゃんが生まれる可能性があります。男女を問わずの予防接種は、これらを回避するために重要です。

ワクチンによる予防

現在は麻疹ワクチンと混合した麻疹風しん混合ワクチン（MR）が定期の予防接種に組み込まれています。2007年から始まった10～20歳代を中心とする麻疹の全国流行を受け、2008年度から2012年度までの5年間、通常第1期、第2期に加えて、中学1年生（第3期）および高校3年生相当年齢者（第4期）に定期接種を受けることができるようになりました。この年齢で接種を受けると公費負担で受けることができます。詳しくは市町村または医療機関でご相談ください。

なお、過去に風しんに感染または予防接種を受け、すでに免疫を持っている方が再度接種を受けても、特別な副反応が起こるなどの問題ははありません。

（感染症情報センター 記）

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます

アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm